

〈焦点1〉

地域医療を守りたい

—住民としてできること—

丹生裕子

県立柏原病院の小児科を守る会

Activity for Community Health Care

Yuko Tanjo

Support Group for Pediatrics at Hyogo Prefectural Kaibara Hospital

| | |
|----------|------------------------------------|
| キーワード | |
| 地域医療 | community health care |
| 小児救急 | pediatric emergency |
| 適正受診 | proper consultation |
| 兵庫県立柏原病院 | Hyogo Prefectural Kaibara Hospital |
| 丹波 | Tamba |

「うちの子の病気のこと考えたら、柏原病院の小児科がなくなるんは、ほんまに困るんや…でも先生のあるな姿見とったら『辞めんといて』とは、よう言わん…」

2007年4月、私たちが暮らす兵庫県丹波市にある県立柏原病院小児科・産科の存続の危機が地元丹波新聞にて報道されました。それを受けて開かれた座談会で、小児科への入退院を繰り返している子どもの母親が、涙ながらに語ったのが冒頭の言葉です。

「丹波医療圏」は丹波市と篠山市の2つの市からなります。人口は合わせて11万余人、面積は870平方キロメートル。この広い丹波医療圏の小児科勤務医は2006年から減少しはじめ、2007年4月には実質2人になりました。そのうちの一人が院長に就任することになり、現場に残された先生が「これ以上の負担に耐えられない。」と、退職の意向を示されたのです。

これまでお世話になった先生のために何ができるだろう?この現状を多くの人に伝えたい…。座談会に出席した母親たちは、署名活動を進めるために「県立柏原病院の小児科を守る会」を結成しました。署

名用紙には県立柏原病院への小児科医の招へいを要望するとともに「私たちがコンビニ感覚での受診を控えます」と明記しました。また、医師の過酷な労働環境を説明し、「安易な病院受診を控えるようにしませんか?」と呼びかけました。署名を県に提出したものの、期待していた結果は得られず、行政に頼るのではなく私たち自身が行動し、お医者さんが働きやすい地域を作るしかないのだと気がきました。

私たちは「こどもを守ろう!お医者さんを守ろう!」を原点に、3つのスローガン「①コンビニ受診を控えよう ②かかりつけ医を持とう ③お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」を掲げ活動を進めています。医師の増員を求めるのではなく『今いるお医者さんを大切にする』という考えに基づき、住民として出来ることを見出し実践しています。これらのスローガンを目に見える形で住民に呼び掛けるために、さまざまな啓発グッズを作成しました。

「小児救急電話相談#8000」のと書かれたマグネットステッカー。これを冷蔵庫などに貼って、受診に悩んだ時に役立てて欲しいと思っています。「こどもを守ろう!お医者さんを守ろう!」と書かれたマグネットス



図1 マグネットステッカーと小児救急冊子

テッカー。これを車に貼って走ることで、医療に理解のある地域だということが内外にアピールできるのではないかと考えています。また、子育て世代だけでなく、幅広い年代の方に呼び掛けるため「地域医療を守るのは一人ひとりの心がけ」と書かれたステッカーも作成しました。

子どもの救急に関する情報をまとめた冊子「病院に行く、その前に」は、子どもの症状に従ってチャートをたどると、今すぐ受診すべきかどうか判断できるようになっています。冊子の監修を柏原病院の小児科の先生方をお願いし、先生の意見を取り入れながら随時改訂しています。そのほかにも、粉薬の上手な飲ませ方や座薬の正しい使い方など、ホームケアを中心にまとめ、丹波市の協力のもと、乳幼児のいる家庭に全戸配布されています。この冊子は、子どもの症状・状態を観察し、適切な受診をする親が増えることを願って作成されました。（「図1」マグネットステッカーと小児救急冊子）

また、日頃の感謝の気持ちを目に見える形で伝えられるように、柏原病院小児科窓口に「ありがとうポス

ト」を設置しました。ポストに集まったメッセージは小児科前の待合廊下に掲示しています。（「図2」ありがとうポスト、「図3」柏原病院小児科外来のありがとうメッセージ）

そのような感謝の気持ちが日本全国に広がることを願い、講演に行った先々でも参加者に「ありがとうメッセージ」を書いていただき、各地のお医者さんに『感謝』を届ける活動をしています。ありがとうカードを受け取った医師から、守る会宛に「ありがとう」のメールをいただくこともあり、私達の活動の励みになっています。そのほか、ホームページやブログの運営、地元の医療情報を載せた携帯メールマガジンの配信など、日々の情報発信にも力を入れています。



図2 ありがとうポスト

住民の協力によって、発足半年後には、小児科の時間外の受診者数は半減しました。小児科の先生は、「受診者数は減っても入院する患者さんの数は減っていない。つまり入院率が上昇し、重症の患者さんが集まる、本来の病院の機能が果たせるようになった」と説明して下さいました

2007年10月、神戸大学からの応援医師派遣がスタートしました。お医者さんを招くために丹波市からも負担金が出されました。県立病院に対して市が金銭支援をするのは兵庫県内では初めての事例でした。そして守る会が発足して一年後の2008年4月に新しい医師が着任し、ゼロになることが懸念されていた柏原病院の小児科は、過去最高の常勤医5名体制となりました。これは住民一人ひとりが「自分には何が出来るか?」を考え、実際に行動に移したからこそ結果だと思っています。

守る会の活動は他の地域にも広がり、さまざまな地域で「お医者さんを大切にしよう、賢い親になろう」という住民主体の活動が始まっています。小児医療

だけでなく、内科や外科などを含めた地域の医療を守ろうという住民活動はさらに多くの地域で始まっています。

丹波市内でも、地域ぐるみの取り組みが目立つようになってきました。商店街の街路灯には「地域医療を守るのは一人ひとりの心がけ」と書かれた啓発フラグがはためき、ショッピングセンターには啓発ポップが溢れ、町を走るタクシーや通園バス、企業の営業車には守る会が作成したマグネットステッカーが貼られています。

守る会発足後、市内では地域医療を守るためのグループが活動を開始しました。「丹波医療再生ネットワーク」は市内の有志の医療関係者や新聞記者のグループです。毎月、住民向けの医療勉強会「ざわざわかレッジ」を開催し、また、医師会と連携して、市内の中学二年生を対象にした心肺蘇生法の講習会に積極的に取り組んでいらっしゃいます。中高年の一般住民グループ「たんば医療支え隊」は、地域医療の現状を学ぶとともに、柏原病院で当直され



図3 柏原病院小児科外来ありがとうメッセージ

る先生方へのお弁当の差し入れなどの活動を展開されています。丹波市薬剤師会の有志の皆さんは「夜間おくすり電話相談」と称して、一台の携帯電話を日替わりで順番にまわして、平日の夜間に市民からかかってくる相談に対応されています。そのほか、丹波市連合婦人会の有志の皆さんが、柏原病院や柏原赤十字病院で、受診手続きの手伝いなどのボランティア活動をされています。子育て世代の守る会だけでなく、さまざまな立場や年代の住民の皆さんによる活動が盛んになってきたことは、大変心強いことです。

丹波市の行政としての地域医療を守る取組みも数多く見られます。あらゆる年代の方の健康相談に専門業者が対応する電話相談サービス「夜間健康相談ホットライン」を開設し、「みんなで守ろう!地域医療」と書かれた丹波市の市章入りのステッカーを全ての公用車に貼付するほか、各種補助金制度を設けるなど、さまざまな行政施策を実施しています。

現在、守る会の活動として私たちが力を入れているのは「ママのおしゃべり救急箱（通称：ママ救）」です。これは対話を重視した医療座談会として、2008年6月にスタートしました。当時は、守る会メンバーが地域の子育て学習センターなどに出向き、

子育て中のお母さんたちに地域医療の現状や子どもの病気やケガに関する情報をお伝えしたり、日頃不安に感じていることや疑問に思っていることの相談にのっていました。そして、回を重ねていくうちに、医療知識を持つことで住民自身が安心して暮らすことができ、また健康なうちからお医者さんとコミュニケーションをとることで、医療に理解のある地域へと変わっていくのではないかと考えるようになりました。

2012年5月から、丹波市の協力を得て定期的に「ママ救」を開催しています。さまざまなテーマ「夏場の病気」、「妊娠・授乳中のお薬について」などに応じて、小児科医・薬剤師・保健師さんらをお招きし、専門知識を分かりやすくお話していただいています。お母さんたちが参加しやすいように託児を実施しています。質疑応答の時間もたっぷりあり、参加者からは「とても役に立った」と、好評をいただいています。また、診察時とは一味違う先生の人柄を感じられる良い機会でもあり、受診時に聞きそびれた些細な疑問などを尋ねるお母さんもいて、会場は和やかな雰囲気になっています。出産にまつわる数値を題材にし、「医療の不確実性」について考えていただく時間も設けています。（「図4」医療講座「ママのおしゃべり救急箱」の開催風景）



図4 医療講座「ママのおしゃべり救急箱」の開催風景

千葉県東金市で活動をしているNPO法人「地域医療を育てる会」の理事長さんが、私たち守る会の活動をもとに、「くませんせいのSOS」という絵本を作成されました。私たちは絵本を拡大して紙芝居を作り、市内の保育園等に配布したり、ママ救に参加された親子に見てもらったりしています。

私たちはこれまでに多くのメディア取材を受けました。私たちの活動をお知らせすることが、地域医療について考える一つの「きっかけ」になればとの思いで対応させていただいています。また、さまざまな地域で開催される講演会やシンポジウムにお招き頂いた際は、私たちの活動をお伝えすることで、そこに住む皆さんが現状に目を向け、地域医療を守るため、さらなる行動を起こして頂くよう願っています。地域医療に関する行政視察として他の自治体から丹波へ来られた方々に対しては、守る会だけでなく、柏原病院、丹波市当局との合同対応をさせていただいています。丹波の地域医療を支える取り組みを多角的に理解していただくことができるのではないかと考えています。行政・医療者・住民がそれぞれの立場で、

「地域医療の再生」という同じ目標へ向かい、共に考え、行動に移していくことが重要だと感じています。

また、柏原病院小児科に来られる学生さんの研修のお手伝いをさせていただいています。実習プログラムの一つとして、学生さんに小児医療に関する講義をしていただきます。その後、私たちが保護者の立場からさまざまな質問をします。私たち一般住民の唐突な質問に学生さんは困惑するのですが、そのようなことが学生さんのコミュニケーション能力の向上につながるのだそうです。実習後に、守る会オリジナルの修了証を額縁に入れて手渡しています。（「図5」医学生の研修のお手伝い）

夏には守る会オリジナル啓発うちわを作成しています。守る会メンバーによるショッピングセンターでの店頭配布をはじめ、市内のさまざまな団体に協力していただき、地域の夏祭りなどで多くの方々に配布しています。

そのほか、柏原病院などで行われる院内コンサートに参加させて頂いたり、マグネットステッカーの無料交換会を開催したり、市内の薬局さんにありがとうポ



図5 医学生の研修のお手伝い

ストを置かせてもらったりしました。普段は月に2回ほど、平日の午前中に子連れで集まり、わいわいおしゃべりをしながら、ありがとうメッセージの発送作業などをおこなっています。医療講座「ママ救」に参加したことがきっかけで、守る会のメンバーになってくれるお母さんもいて、会員も少しずつ増えてきています。現在は26名で活動をしています。

2011年2月に「第1回地域再生大賞」にて全国・準グランプリを受賞しました。受賞のニュースを受け、地元商店が大きな垂れ幕を店先に飾っていただくなど、地域の皆さんと喜びを分かち合うことができました。この受賞は、地域の医療を再生させようという、皆さんの思いや行動が高く評価されたものだと感じました。一人ひとりの力は小さくても、それが集まり大きなうねりになって地域が変わっていくのだということを実感するできごとでした。

2012年10月には第14回なかしんふるさと賞を、2013年11月には「ソロプチミスト日本財団」による「平成25年度 社会ボランティア賞」を受賞しました。私たちの活動が地域に溶け込んできた、ひとつの証（あかし）のように感じています。（「図6」ソロプチミスト日本財団表彰式にて）

私たちは、私たちの暮らす丹波が、安心して子どもを産み育てられる地域であり続けて欲しいという思いから活動を始めました。そのためにはお医者さんの力が不可欠です。「子どもを守りたい」そして「お医者さんを守りたい」その気持ちが活動の原点でした。『県立柏原病院の小児科を守る会』として活動を始めたのですが、活動を進めるうちに、小児科だけでなく、柏原病院だけでなく、私たちが守りたいのは、

丹波の地域医療だということに気がつきました。そして、お医者さんと住民は、医療を施すものと受けるものという相対するものではなく、ともに力を合わせて地域の医療を作り上げていくパートナーのようなものだというにも気がつきました。

私たち住民にできることは、今いるお医者さんを大切に、働きやすい環境、医療に理解のある地域づくりを進めることだと思います。多くの人に現状を伝えることで、小さな力がやがて大きな力になり地域が変わっていくのだということを実感しています。行政がすべきこと、医療者が努力しなければならないこと、そして住民だからこそできること…。それぞれの立場の方が同じ目標に向けて協力すればだれもが安心して暮らせる地域になるのだと信じています。地域医療を守るのは一人ひとりの心がけ。子どもも親も、そしてお医者さんも、誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざして私たちは活動を進めて行きたいと思っています。



図6 ソロプチミスト日本財団表彰式にて